

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

法人名	ケンパ・ラーニング・コミュニティ協会
施設名	ケンパ池上
施設所在地	大田区池上4-25-9

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

花から作った色水で紙を染めることができるのか

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

園舎が木を特徴とした作りになっており、木の温かみを大切にしている。園内のドアや棚を見た子どもから「ここは木でできてる」と木への興味関心がみられた。また園や公園にある花が咲く木にも興味がうつっていった。

## 2. 活動スケジュール

4月 白いツツジの実験

5月 ピンクのツツジの実験

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

<4月 花びらの染剤での染色実験>

素材：ツツジの花びら(白)、水、紙コップ、染色液

<5月 花びらで作った色水での染色実験>

素材：ツツジ(ピンク)、水、透明プラカップ、コーヒーフィルター、ティッシュ、紙

その後、色水を冷凍したらどうなるのか興味をもち、冷凍庫にて保管を開始する

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

4月 子ども達が白いツツジに興味を示したので、染色液で白いツツジが染まるのか実験を行った。染めた結果は、花びらは花びらごと染色され、茎付きの花びらは茎だけ染色された。

5月 よく行く戸外活動先に園庭とは違う色違いのツツジ(ピンク色)が咲いていることに気が付き、拾って持ちかえることを計画する。色のついたツツジを見て、ツツジで作った液で、ものは染まるのかと興味をもったため、ツツジと水で色水を作り、そこにコーヒーフィルターで異物を取り除き、ツツジからできた染色液を完成させる。その後、ツツジの染色液で紙やティッシュを染める活動を行った。色水を冷凍したらどうなるのかということに興味が出たり、冷凍庫にて保管を開始した。その後、木に興味が出たり、ツツジの活動を終えた。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

自分たちで作った色水で活動を行ったことで積極的に参加する姿がみられた。

染色後は「紙とか布みたいに簡単に染まらないんだね」という気づきを得ていた。その後は「凍らせたらどうなるのかな?」と新しい疑問がでていたため「やってみよう!」と冷凍庫にて保管を行った。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

植物の色水で染色を行ったことで、植物への興味が深まっていた。木を中心に興味関心が深まっているため、戸外活動を通して植物を探求していきたい。

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

法人名	ケンパ・ラーニング・コミュニティ協会
施設名	ケンパ池上
施設所在地	大田区池上4-25-9

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

積み木の可能性(幼児)

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

園舎が木を特徴とした作りになっており、木の温かみを大切にしている。園内のドアや棚を見た子どもから「ここは木でできてる」と木への興味関心がみられたため、つつじの花を凍らせる活動を行い、興味関心を広げた。どのクラスにも木の玩具を積極的に取り入れられていなかったことから、玩具研修を行い職員のスキル向上を行ったうえで、上質な木の玩具を園全体で取り入れ、子ども達が木という素材に興味関心をもてるよう、より良い環境を提供できるようにした。

## 2. 活動スケジュール

10/2 玩具研修(職員研修)

10/21 積み木の玩具購入

11/3 子ども達へ積み木の玩具提供

11/10 玩具遊び方指導(講師来園)

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

研修にて、積み木で遊ぶことは0歳児から必要な、自然の法則を学ぶよい経験となることを学び、講師と相談してクラスごとに必要な玩具を用意した。

また、提供後も継続して講師に来園してもらい子どもへのよりよい声掛けや環境・遊び方へのアドバイスももらった。

幼児クラスは広さ・数・何日も続けて作ることができる場所を提供することで、作りたいものが思い通りに作れる環境作りを行った。

また、木の素材に関心が行くように様々な材質の積み木を用意した。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

片づけなくてよいコーナーへネフスピール・ディグノ・レンガ積み木を中心に数種類を置いた。その他の玩具や素材との組み合わせを思いつけるよう声掛けを行った。数人が協同で制作できるよう広いスペースを用意した。  
少人数のグループで活動を行い、話し合いながら何を作るのかを決められるようにした。  
素材ごとに積み木を収納し、重さや手触りに着目できるようにした。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)  
様々な種類の積み木を組み合わせて家を作りフィギュアと組み合わせてごっこ遊びを数人で遊ぶ様子が見られた。始めは小さな家だが、数日経つと段々と大きくなり、平面の遊びを楽しむ。カラーポリ袋などの異素材を組み合わせ、川やお風呂を作った。友だちと協力しながら想像力を膨らませて楽しむ様子が見られた。  
木の素材ごとに収納することで、素材の違いに気づくことができていた。「これはツルツルしてる」「これは軽いね」など、素材の違いで積み上げ方も工夫していた。



家づくり



協力して建築しています

#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

遊び方を数人で話し合い決めている姿が見られた。また、年上児の遊び方を年下児が真似して見様見真似で行う姿も見られた。保育者が積み重ね方のポイントを伝えることで、立体的に積み上げたり、可動式の遊び方ができるようにしていきたい。  
木の素材に気づく姿も見られたため、戸外活動にて木を拾いに行き、探究活動を行いたい。

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

法人名	ケンパ・ラーニング・コミュニティ協会
施設名	ケンパ池上
施設所在地	大田区池上4-25-9

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然物の不思議を知ろう。

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)  
積み木にて自然物への興味感心が広がり、近隣の神社裏などで自然物を集める姿がみられた。もっと自然物を探求するため、図鑑を使って調べることにした。

## 2. 活動スケジュール

1/ 15 自然物を探求にでかけた。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)  
行き慣れた場所へ、5歳児と3歳児の2クラスで出かけた。  
図鑑をいくつか持っていき、袋は一人一袋持ち自然物を拾って持ち帰ることが出来るようにした。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

朝の会にて「図鑑で自然物を調べて、持ち帰ろう」と伝え、戸外活動へ出かけた。自由遊びを楽しむ児もいたが、自然物に興味を持った児は少人数でグループになり、気になる物を図鑑で調べ、持ち帰った。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

「この葉っぱはどの木から落ちてきたのかな?」「なんてなまえなんだろう?」と木を見上げたり、図鑑で探す姿がみられた。保育者は「なんだろうね」と一緒に考えたり「ギザギザしてるよ」と植物のポイントを伝えたり「匂いはどう?」など、触感や匂いにも着目できるよう促した。



葉っぱを見比べる5歳児



保育者と考え中・・・

#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

年齢を問わず、少人数グループにて活動を行ったことで自然物に対する気づきを深めることができていた。拾ってきた自然物は、保管し次の活動で使用できるようにした。

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

法人名	ケンパ・ラーニング・コミュニティ協会
施設名	ケンパ池上
施設所在地	大田区池上4-25-9

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

自分の世界を表現しよう！

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)  
自然物を探求し、自然物を集めたことから、それを使った作品を作れないかと考えた。  
5歳児が粘土活動を興味深く行っていたため、自然物と粘土を融合させて自分の世界を表現する活動を行うこととした。

## 2. 活動スケジュール

2/17粘土活動にて、自分の世界を作ろうと提案する  
2/19追加の自然物を拾いにいく  
2/25～31自分の世界作り  
3/11～17みんなの世界を繋げた街づくり  
3/20卒園式にて保護者に公開

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)  
5歳児だけで話し合いや相談ができる環境とした。  
粘土、自然物、画用紙、ボンド等

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

卒園式での保護者へのお披露目を目指し、一人一箱の中に世界を表現する活動を行った。部屋を作る児・お店を作る児・車庫を作る児など、思い思いの世界を表現した。自然物との融合は、枝や葉っぱを駆使して旗やベッドを作ったり、人形の中に石を入れておもりにしたりなど、アイデアがみられた。最後には、全員の作品を繋げることになり、子ども同士の協力や相談が活発にみられた。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

自分の世界を表現する中で「みんなの世界をつなげよう！」と子ども達から発案があった。「じゃあ、道路を作って、電車も走らせよう！」などと意見を出し合い、フィールド作りも意欲的に行っていた。合体させるときには、フィールドに限りがあり乗せきれない事があったが「全員が納得するように作ろう」と保育者が声をかけると「じゃあ、私の小さくする」など、思いやりのある発言や工夫をする姿がみられ



自分の世界作り

みんなの世界を融合！

#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

木をテーマに活動し、知っているものを取り入れられたことで、作品の幅が広がった。

子ども達の相談する力や、発案を形作る力が育まれていることがわかった。

卒園式での公開を目標とすることで、驚かせたい・感動させたい。などの目標が生まれていた。